

弘前市立博物館 ニュースレター

No.8

令和6年1月号

Hiroaki City Museum Newsletter

■新年あけましておめでとうございます。

読者の皆様、新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。本年の干支は「甲辰(きのえたつ)」、博物館も新しい挑戦を続け、上り調子の一年とすべく職員一同努力してまいります。

さて、当館では今年も昨年に引き続き色々な企画を開催します。まず直近の企画展では昨年12月から開催中の企画展3「博物館に初詣！」を2月12日(月・振休)まで開催しております。2月10日(土)には予約不要の親子向けギャラリートークも開催予定です。皆様お誘いあわせの上、ぜひご来館ください。

さらに、1月27日(土)・2月3日(土)・3月9日(土)の3回に分けて、博物館歴史講座も実施予定です。それぞれ上條信彦先生(弘前大学)、石山晃子先生(青森大学)、古川祐貴先生(弘前大学)に講演いただく予定です。博物館ホームページなどでご確認のうえ、ぜひお越しください。参加には電話予約が必要です。

3月以降も様々な企画を準備しております。引き続き、本年も弘前市立博物館のご愛顧を賜りましたら幸いです。なにとぞよろしくお願いいたします。(館長 熊谷)

■企画展3「博物館に初詣！」オープンしています！(後編)

昨年12月9日(土)より、企画展3「博物館に初詣！」を開催しています。前号に引き続き、本号では「こよみ」に関する展示資料を紹介します。

「こよみ」に関する展示品としては美術工芸展示室に展示した「引札」や特別展示室に展示した江戸時代の「稽古館暦」などがございます。その中でも今回は引札を紹介します。

引札は、一言でいえば現在のチラシにあたるものです。江戸時代からすでにつくられ始めていましたが、今回展示したものは明治～大正時代のもので、主にお正月用として配布されたものです。お正月にふさわしく、七福神や鶴などおめでたい絵柄が特徴的です。



▲引札展示コーナー(部分)。色彩豊かな絵柄が目を引きま。

しかし、これだけを見ると「こよみ」に関係がある資料なのかな？と疑問を持つ方もいらっしゃるのではないでしょうか。



▲展示中の引札(かくは宮川呉服店、明治38年<1905>)

具体例として、展示資料からかくは宮川呉服店の引札をみてみましょう。カラフルな美人画が目を引きますが、注目いただきたいのは赤い丸部分です。見づらいのようですが…これは略暦、つまりカレンダーなのです！現在も年末年始にお店でカレンダーをもらえますが、100年以上昔にも同じ習慣があったのです。

なお、この略暦はいわゆる旧暦に基づいて作られています。明治時代には公的に旧暦が使用されないものとなりましたが、人々の旧暦への需要は相変わらず残っていました。その理由は、旧暦に書かれた事柄がお祭りや農作業の目安に使われ続けていたためとされます。旧暦から続く事柄は節分・八十八夜・入梅…など、今も見られるものもあります。展示で引札を見る際は、暦にも注目してみてください。

(「博物館に初詣！」担当学芸員 工藤)

■「弘前藩庁日記」冊数確定作業、進行中！

1月15日付の「東奥日報」に「江戸時代の記録 200 年分、なぜ文化財ではない？」と題された新聞記事が掲載されました。

この記事で紹介されたとおり、弘前市立弘前図書館に所蔵されている津軽家文書「弘前藩庁日記」の冊数確定作業が行われています。弘前市教育委員会文化財課や弘前大学の先生方、高岡の森弘前藩歴史館と当館も作業に参加しています。

作業を阻むのとはとにかく多いその冊数！博物館では、4500 冊以上あるうちの 600 冊余り、元禄年間(1688-1704)の国日記と享保年間(1716-36)の江戸日記を近世専門の学芸員2名で分担しています。「弘前藩庁日記」は、弘前で記録された国日記と江戸藩邸で書かれた江戸日記があるのです。

さて、作業は図書館の2階、参考調査室の奥にある貴重書庫で行います。まず、薄葉紙で包まれた資料を開梱して縦と横のサイズを計測して記録します。これは、事務員さんたちにお手伝いをお願いしています。厳重に包まれているものもあり、資料を出すのにもしまうのにも気を遣います。表紙に記された、年月日や資料の状態などの記録については学芸員が行います。くずし字(筆字)で書かれた年月日などは読むのに少しコツがいります。

みんなで協力しながら作業を進めています。

(主査兼学芸員 小田桐)

■Fb&インスタ！～1月編～

博物館では、展覧会と展覧会の間の期間に展示替え作業を行っています。展示替え作業は担当学芸員を中心に職員全員で行います。

最初に終了した展覧会の展示物を撤去し収蔵庫へ収納します(特別企画展などは所有者へ返却します)。掲示物も剥します。その後、次の展覧会の展示レイアウトに合わせて展示ケースなどを移動させます。学芸員以外の職員にとってはこれが一番大変です。とても重いため、複数人で汗だくになって押します。

展示室のレイアウトが完成したら、いよいよ作品の展示作業です。学芸員が慎重に掛軸などの展示作品を設置していきます。



▲掛軸の展示作業風景。

ただ漠然と配置するのではなく、見る人の目線に合わせて細かく調整します。最後に照明の調整です。天井に設置した照明ライトの光が当たる範囲や強さを展示作品ごとに設定します。

これらの作業は一般の方が普段見ることはないですが、博物館インスタグラムや Facebook にて毎回紹介していければと思っています。どうぞお楽しみに！

(主事 児玉)

■1月6日開催講座「津軽地方の一代様」、大盛況でした

1月6日(土)に企画展関連講座「津軽地方の一代様」を開催しました。講師は弘前大学大学院の石岡彩華さんです。一代様信仰の概要・歴史や津軽地方の特徴、他の地方の一代様などをご講演いただきました。



▲講座の実施風景。

(「博物館に初詣！」担当学芸員 工藤)

■新年ノベルティ残りわずかです

1月4日から、企画展3「博物館に初詣！」にちなんだノベルティを配布しています！その中身は・・・「こよみ」付き大判しおりです！



▲ノベルティグッズの大判しおり。

しおりは 2 種類あり、観覧されるお客様に両方お配りしています。デザインは①展示している「稽古館暦」風と②上半期カレンダーです。なお、ウラは両方共通で企画展ポスターデザインになっています。先着順でお配りしており、残りもわずかです。ご希望の方はぜひお早め。

(「博物館に初詣！」担当学芸員 工藤)